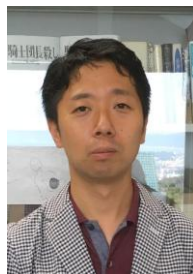


# 日本近代文学概論

国際学部 国際文化学科 教授

小嶋洋輔



## 授業概要

日本近代文学の作品を手がかりに、その背後にある歴史・社会・文化的文脈を読み解く導入科目。学生発表と討議を軸に、作品中の固有名詞・地名・場面を起点に「別文脈」を探求し、現代社会やジェンダー・マイノリティに関する視点を養う。

## 文学作品の読み方は千差万別、完全に同じ読みは存在しないー

作品の固有名詞や地名、時代背景、ジェンダーなどを糸口に、物語を別の文脈へ広げながら読む授業を行っている。芥川賞受賞作や現代小説を素材に、学生が「気になる点」を調べ、発表や討議、補足レポートへとつなげていくことで、一つの作品から社会・歴史・「マイノリティ」へ視野を広げていく学びを実現している。



### 担当教員からのポイント

#### Point1 : 作品を「別文脈」に接続し、文学を社会へひらく

小説中の乗り物、バンド名などの固有名詞、在日コリアンの表象など、学生が気になった要素を丁寧に調べさせる。その要素を「別文脈」として都市空間の歴史、ジェンダー観、マイノリティの位置づけなどへ接続させることで、一見ただの物語に見える作品の背後にある社会・時代が立ち上がる読解の広がり生まれている。

#### Point2 : 発表 → 討議 → 補足発表／レポートで、読みを往復させる

学生が選んだ小説について発表し、クラス全体でコメント・質問を交わす。そのフィードバックを踏まえて教員がコメントを返すことで、次回の補足発表や1200字の補足レポートで読み直すプロセスを設けている。

#### Point3 : ヒントを出しすぎず、自力で“現代のテーマ”に接続させる

授業の初期段階では、あえてヒントを出さず、「何が気になるのか」を学生自身に見つけさせている。そこからジェンダー・マイノリティ・都市文化といった現代的テーマへ繋げていくことで、学生自身の「普通」や価値観が揺さぶられる経験へと導いている。

単位 2単位

開講 2024年度後学期

授業形式 講義

対象 国際文化学科2年次

履修者数 21名

問すべての平均点 4.90

## 履修学生・授業コメントからのポイント



### 履修学生の声

#### Point1 : 小説世界が“広がる”体験 — 背景・別文脈を知る面白さ

「自分では気づけない背景や別文脈を知るのが楽しかった」「一冊の本にじっくり向き合う体験ができた」などの声が多い。→ 文字を“読む”だけでなく、時代・社会・文化に広げて考えることで、小説の見え方が一変したことがわかる。

#### Point2 : 多様な読み方を知り、自分の読書が変わった

他の学生の発表や先生の補足から「小説にはこんな読み方があるのか」と驚いたという声が多い。同じ作品でもまったく違う解釈に出会い、読書習慣や視点が広がったという学びが多く表れている。

#### Point3 : 発表形式の授業で“理解が深まる”実感があつた

毎回の発表を通して、小説・文学の読み方を実践的に学べたという声が多い。特に、先行研究の扱い方や補足レポートの書き直しによって、作品を論理的に深める技術が身についたと振り返っている。



### 授業評価コメントより

Point1 : 普段読まない芥川賞作品に触れる貴重な機会だった

Point2 : 視点が増え、小説の読み方が変わった

Point3 : 先生の解説で世界がつながる体験ができた

Point4 : 多様な意見を否定せず受け止める姿勢が安心できた など